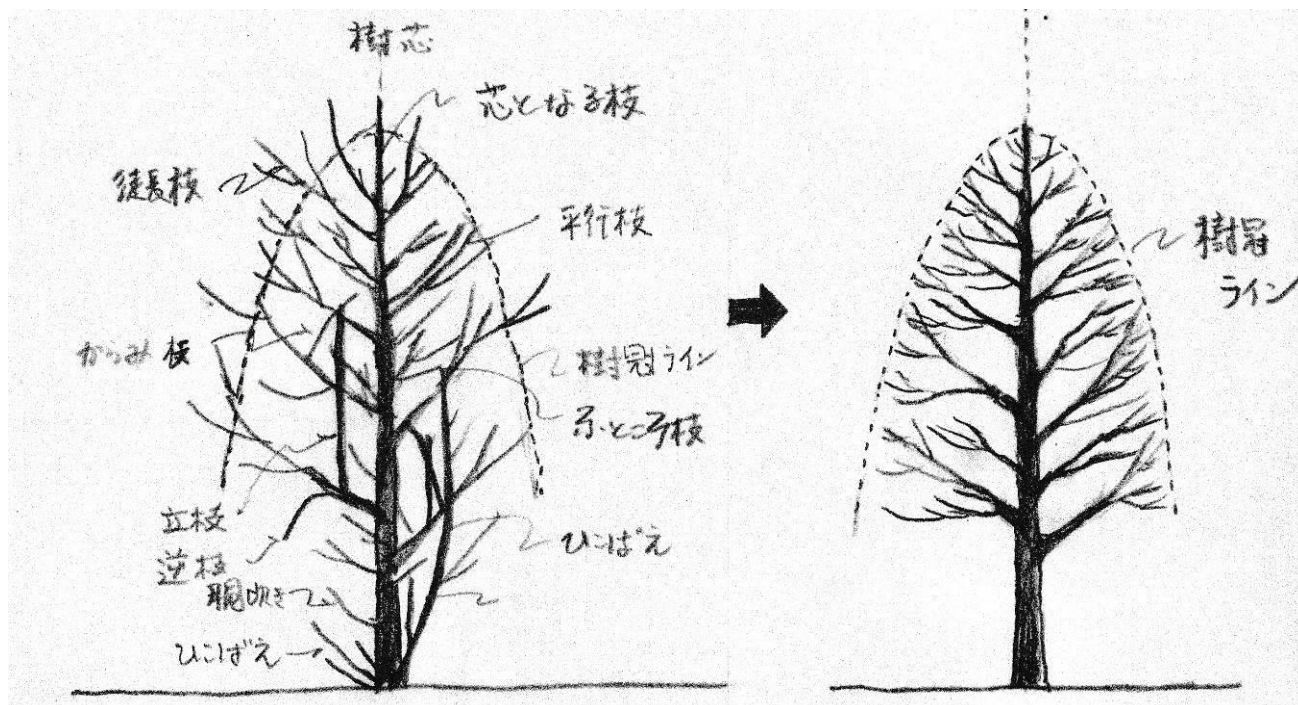
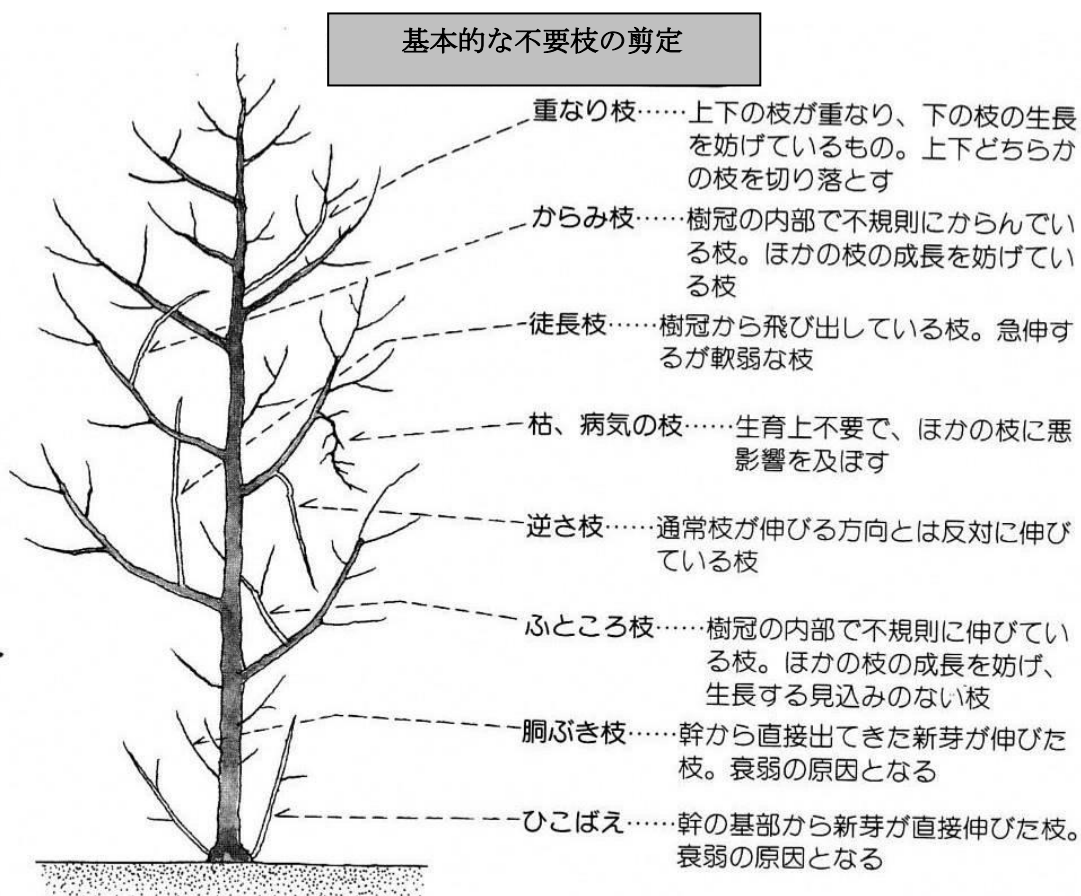


庭木・植木の剪定資料

○剪定を行う前に考える事

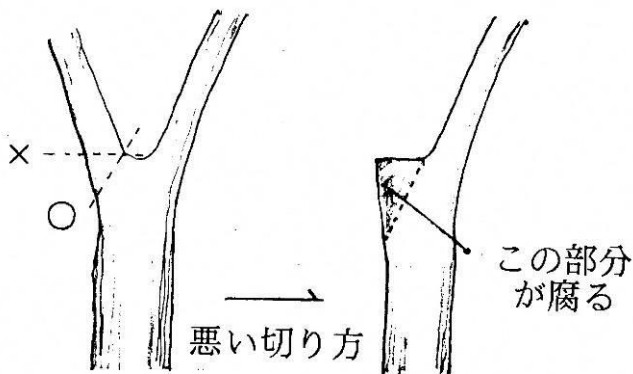
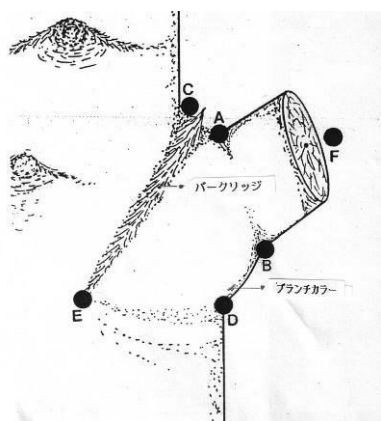


○先ず不要枝の剪定



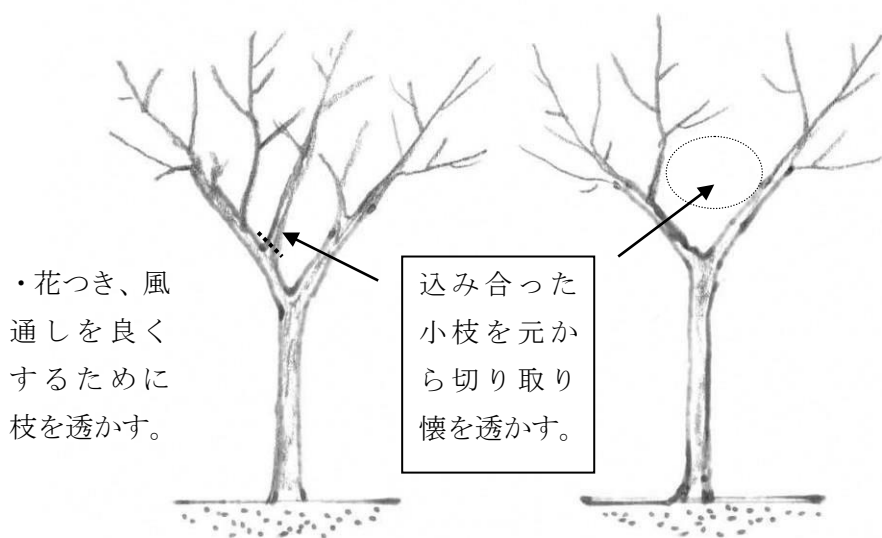
1. 大枝の剪定

- ・剪定後の切り口の癒合は基本的な剪定方法と、剪定時期(参考資料—1)樹木の健康状態により決まるので、大枝は幹瘤を残しバークリッジの外側の a-b で切除する。切り口断面の直径が5cm以上ある場合、切り口を防腐処理する。
- ・枝の切り方は斜め切を基本とする。



2. 枝抜き剪定

- ・一般的に、枝の切る位置は枝の分枝部分である。
- ・この方法は色々の樹形に用いられる手法で、込みすぎた枝を間引く剪定、徒長枝、絡み枝等の不要枝の剪定にも用いられる。



3. 切り詰め剪定

樹木の生長を抑制し、樹冠を一定の大きさに保つ剪定の方法で、対象となる枝は当年枝で樹冠外に飛び出した枝を短く詰める剪定。

当年枝を伸ばし放しにしておくと先端部の芽だけが伸びて、中間部以下の芽は発生せず潜芽となり枝葉がなくなり樹形が乱れる原因となる。まのびせず樹形の整った樹形を作るには、中間部以下の定芽の位置で芽の伸びる方向を確認して切り詰め剪定を行う。

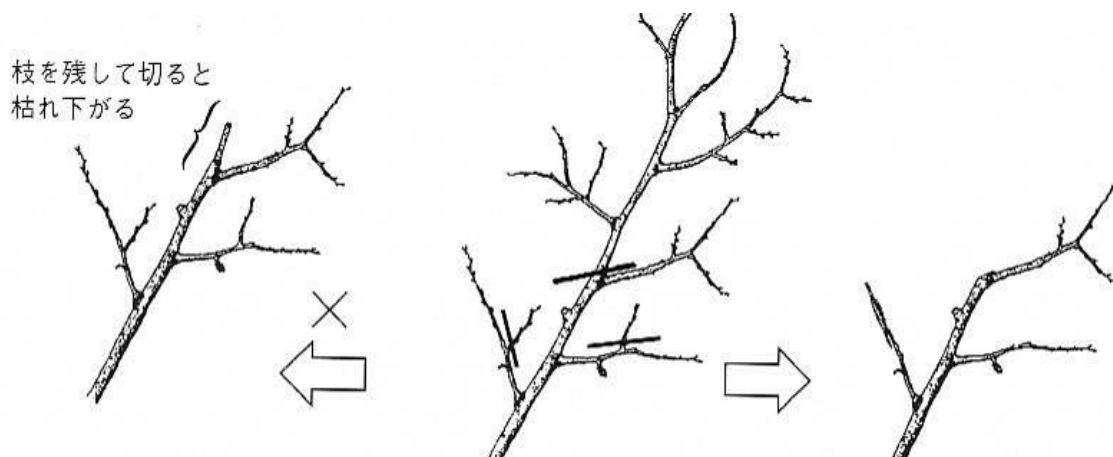


・樹形を小さくしたり、一定の大きさに保つために枝を切り縮めること。

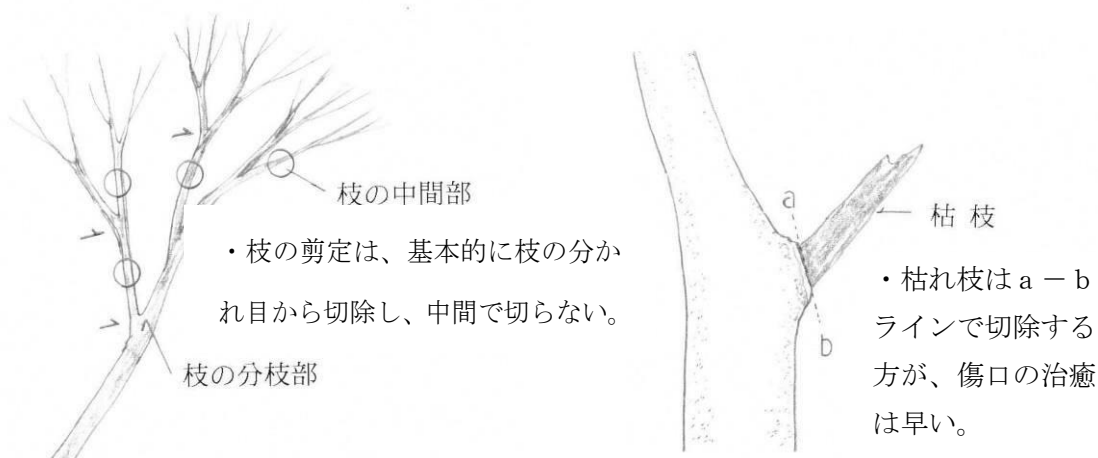
・内芽で切ると枝が内側へ
外芽で切ると外側へ伸びる
外芽の剪定が正しい

4. 切り替えし剪定

自然樹形を大切にするモミジ類など枝先を切り詰めせず、枝分かれ部分で切除し、樹形縮小を図る。樹形縮小を伴わない枝透かし剪定と異なる。



○剪定の詳細技術



文責 樹木医：小池英憲